

地域経済動向調査報告書

平成 29 年度 第 3 四半期

<平成 29 年 10 月から 12 月まで>

平成 30 年 1 月

調布市商工会

<要旨>

全体の D I の分析から読み取れる市内小規模事業者の第 3 四半期の状況は、第 2 四半期と比べ客数・数量の増加に加え、客単価も回復傾向にあることから売上高の改善が見られた。仕入単価上昇の影響が弱まりつつあり、採算面においても改善の傾向が読み取れるものとなっている。

次期第 4 四半期の見通しとしては、単価上昇による一定の売上増を見込むものの仕入単価の上昇により効果が減殺され、採算改善は限定的なものにとどまるとの見通しが多い。なかでも、小売業の採算改善は特に厳しい見通しとなっており、地域経済は回復基調にあるものの、その歩みは遅いものとみられる。

資金繰り、借入れの面では、目立った変化はない。

経営上の問題としては、事業採算面と人手不足をあげるものが多く、「売上（取引）件数の減少」、「仕入（外注）単価の上昇」が上位を占めた。また、「新規参入業者の増加」や「大企業・大規模店舗の進出による競争の激化」をあげる声も目立ち、昨年 9 月に開業した大型商業施設「トリエ京王調布」の影響を示しているものとみられる。

なお、本報告書での D I（景気動向指数）は、調査項目ごとに有効回答数を分母として、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示している。具体的な算出方法は次のとおり。

$$D I = \frac{\text{増加} - \text{減少}}{\text{増加} + \text{不変} + \text{減少}} \times 100$$

1. 調査の概要

本調査は、当商工会会員である小規模事業者の業種構成比率を基に抽出した市内の製造業4社、建設業6社、小売業10社、飲食業14社、サービス業16社の小規模事業者計50社に対し、経営指導員および巡回相談員を通じ別紙「中小企業景況調査票」への記入によって実施した地域経済の動向を調査したものである。本報告書は、第3四半期（平成29年10月から12月まで）の調査結果をまとめたものである。

2. 今四半期の状況

今四半期（平成29年10月から12月まで）の状況を前年同四半期（平成28年10月から12月）と前四半期（平成29年7月から9月まで）との比較で調査した。また、一部の項目は今四半期の水準についても調査した。

2.1. 売上高の動向

2.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12月比	△ 8.0	25.0	△ 16.7	△ 30.0	△ 21.4	12.5
H29. 7～9月比	18.0	△ 25.0	66.7	20.0	△ 7.1	31.3

H28. 10～12月比では業種ごとに好転と悪化のバラツキがみられた。H29. 7～9月比でも業種ごとのバラツキがみられるが、建設業、小売業、サービス業では改善の傾向もみられる。

2.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H28. 10～12月比	0	△ 4.0	△ 8.3
H29. 7～9月比	6.1	16.0	10.4

売上を構成する要因別にその動向をみると、H28. 10～12月比では特に目だった傾向は読み取れない。H29. 7～9月比では、客数、数量の改善に加え、客単価も回復の傾向が読み取れる。

2.2. 仕入動向¹

	仕入単価
H28. 10～12 月比	△ 40.0
H29. 7～9 月比	△ 28.0

仕入単価の上昇（採算面では悪影響）を示す回答が依然として多いが、H28. 10～12 月比より H29. 7～9 月比の方が改善を示すものとなっており、仕入単価の上昇が弱まる傾向が読み取れる。

2.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12 月比	△ 10.0	25.0	△ 33.3	△ 40.0	△ 21.4	18.8
H29. 7～9 月比	△ 6.0	0	△ 16.7	△ 40.0	△ 7.1	18.8
H29. 10～12 月の水準 ²	16.0	25.0	33.3	0	0	31.3

H28. 10～12 月比で見ると、製造業、サービス業で改善を示す一方で小売業、建設業で悪化の傾向が目立ち、全体を通じて悪化している。H29. 7～9 月比で見ても、サービス業では改善の傾向があるものの、全体の採算性は依然、厳しいことを示している。しかしながら、H29. 10～12 月の採算の水準としては、業種ごとのバラツキもみられるが、「赤字」となった業種がみられなくなったことが特徴的であり採算の回復がうかがわれる。

2.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12 月比	△ 8.0	25.0	△ 16.7	△ 40.0	△ 14.3	12.5
H29. 7～9 月比	△ 6.0	△ 25.0	16.7	△ 20.0	△ 21.4	12.5
H29. 10～12 月の水準 ³	△ 8.0	25.0	△ 16.7	△ 20.0	△ 14.3	0

H28. 10～12 月比で見ると、悪化を示す小売業と好転を示す製造業、サービス業との間で傾向が大きく分かれる。H29. 7～9 月比では、各業界で傾向が分かれるが、全体的には悪化を示している。H29. 10～12 月の業況の水準については、小売業、建設業、飲食業で「悪い」とする回答が目立ち、地域経済全体が厳しい業況にあることが読み取れる。

1 採算への影響の面から正負を表記した（「3. 次四半期の見通し」においても同じ）。

2 「採算（営業利益）」における「H29. 10～12 月の水準」は、「黒字」と答えた事業者の割合から「赤字」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

3 「業況（自社）」における「H29. 10～12 月の水準」は、「良い」と答えた事業者の割合から「悪い」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。過去との比較を問うものではない。

H29. 10～12月の状況の傾向を総じて分析すれば、売上高はH28. 10～12月比で、数量面に苦戦しているものの、H29. 7～9月との対比では客数・数量の増加に加えて客単価も回復傾向にあることから売上高の改善が見られた。仕入単価上昇の影響も弱まりつつあり、採算面にも改善傾向が読み取れるものとなっている。

2.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H28. 10～12月比	0	
H29. 7～9月比	△ 2.0	0

資金繰り、借入難度いずれも目立った変化はみられない。

2.6. 人材

2.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12月比	△ 2.1	0	△ 16.7	△ 11.1	△ 7.1	13.3
H29. 7～9月比	6.3	0	0	0	7.1	13.3
H29. 10～12月の水準 ⁴	△ 43.8	△ 75.0	△ 66.7	△ 33.3	△ 21.4	△ 53.3

全体で見ると目立った変化はないが、H28. 10～12月比では悪化した傾向がみられるもののH29. 7～9月比では改善を示す回答もみられる。ただし、従業員の充足に関するH29. 10～12月の水準は、全業種を通じて人手不足を強く示す結果となっており、問題が根深いものであることを示している。

2.6.2. 外部人材（請負・派遣）

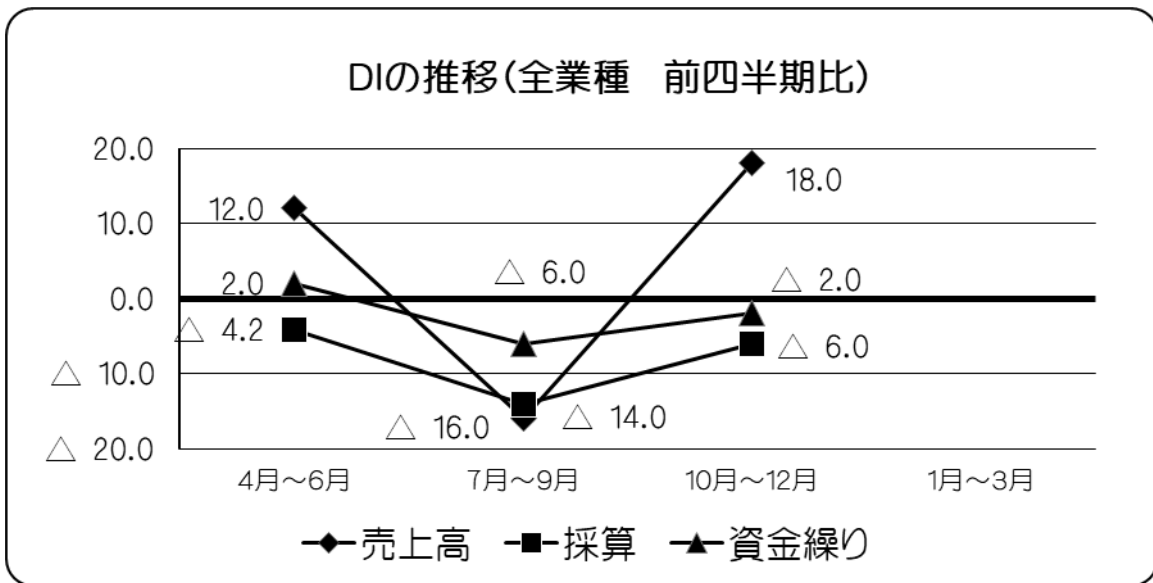
	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H28. 10～12月比	0	0	0	0	0	0
H29. 7～9月比	2.9	0	16.7	0	0	0

特に目立った変化はみられない。

2.7. 推移

全体のD I（売上高、採算、資金繰り）の推移は次のとおりである。

4「従業員（含む 臨時・パート）」における「H29. 7～9月の水準」は、「過剰」と答えた事業者の割合から「不足」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。



3. 次四半期の見通し

次四半期（平成 30 年 1 月から 3 月まで）の見通しを前年同四半期（平成 29 年 1 月から 3 月まで）と今四半期（平成 29 年 10 月から 12 月まで）との比較で調査した。

3.1. 売上高の見通し

3.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1~3 月比	18.0	25.0	50.0	△ 30.0	14.3	37.5
H29. 10~12 月比	2.0	0	50.0	△ 50.0	7.1	12.5

全体としては H29. 1~3 月比での売上回復を見込むものの、H29. 10~12 月比では大きな差はないとの見通しである。ただし、業種によるバラツキがみられ、建設業と小売業の対照が特徴的である。

3.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H29. 1~3 月比	6.1	0	2.1
H29. 10~12 月比	18.4	△ 8.0	△ 6.3

今後の売上増の要因として、H29. 1~3 月比では目立った傾向はみられないが、H29. 10~12 月比では客数、数量の減少を単価の伸びで補うものとなっている。

3.2. 仕入の見通し

	仕入単価
H29. 1～3 月比	△ 28.0
H29. 10～12 月比	△ 26.0

仕入単価の上昇を見込む回答が多く、悪化傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

3.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3 月比	△ 8.0	25.0	0	△ 50.0	0	0
H29. 10～12 月比	△ 6.0	50.0	△ 16.7	△ 50.0	0	6.3

全体的には若干の悪化を見込んでいるものであるが、特に小売業では消極的な見通しを示すなど業種によるバラツキがみられる。

3.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3 月比	8.2	0	16.7	△ 33.3	14.3	25.0
H29. 10～12 月比	6.0	25.0	16.7	△ 40.0	7.1	25.0

全体的には若干の改善が見込まれているが、小売業では悪化を見込む回答も目立ち業種によるバラツキがみられる。

H30. 1～3 月の見通しを総じて分析すれば、単価上昇による一定の売上増を見込むものの仕入単価の上昇により効果が減殺され、採算改善は限定的なものにとどまるとの見通しが多い。なかでも小売業の採算改善は特に厳しい見通しとなっており、地域経済は回復基調にあるもののその歩みは遅いものとみられる。

3.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H29. 1～3 月比	2.0	
H29. 10～12 月比	6.0	△ 2.0

資金繰り、借入難度いずれも目立った変化はみられない。

3.6. 人材

3.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3 月比	△ 2.1	0	16.7	△ 11.1	0	△ 6.7
H29. 10～12 月比	2.1	0	0	△ 11.1	14.3	0

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、小売業では人手不足の傾向が続くものとみられる。

3.6.2. 外部人材（請負・派遣）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3 月比	2.9	0	16.7	0	0	0
H29. 10～12 月比	0	0	16.7	△ 16.7	0	0

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、小売業では人手不足の傾向が継続するとの見通しが多くを占めている。

4. 設備投資

設備投資の動向について、今四半期（平成 29 年 10 月から 12 月まで）の実績と次四半期（平成 30 年 1 月から 3 月まで）の計画を調査した。

	実施／計画 していない	実施した / 計画している				
		建物 店舗	機械 設備 備品	車両・ 運搬具	付帯 施設	IT 機器
H29. 10～12 月実績	82%	4%	12%	8%	2%	4%
H30. 1～3 月計画	72%	4%	12%	10%	-	4%

設備投資については H29. 10～12 月の実績、H30. 1～3 月の計画とも、7 割から 8 割の事業所が実施も計画もしていない。

5. 経営上の問題点

今四半期（平成 29 年 10 月から 12 月まで）に直面している経営上の問題点（重要度の高い順に 3 つ以内）を調査した。

内 容 ⁵	1 位の問題点	1 位～3 位の問題点
売上（取引）件数の減少	20%	34%
仕入（外注）単価の上昇	12%	34%
ニーズの変化への対応	8%	26%
従業員（含パート等）の確保難	10%	22%
熟練技術者の確保難	6%	22%
需要の停滞	6%	16%
新規参入業者の増加	6%	12%
大企業・大規模店舗の進出による競争の激化	6%	10%

事業採算面の問題と人手不足に関する問題をあげる回答が上位を占める。特に前者においては、「売上（取引）件数の減少」、「仕入（外注）単価の上昇」が上位を占める一方で、「売上単価の低下・上昇難」の選択肢を指摘する回答は圏外であり対照的である。また、「新規参入業者の増加」や「大企業・大規模店舗の進出による競争の激化」をあげる声も目立ち、昨年 9 月に開業した大型商業施設「トリエ京王調布」の影響を示しているものとみられる。

5 「1 位」、「1 位～3 位」のそれぞれ上位 5 位までの選択肢が含まれるように抽出し、「1 位～3 位」での上位のものから順に記載した。